

第9回千葉活性化サロン

テーマ「千葉県のポテンシャルと課題～ニューノーマル～」

◇ 令和3年6月14日開催

◇ ゲストスピーカー 水野 創 株式会社ちばぎん総合研究所 取締役会長

「千葉県のポテンシャルと課題」講演概要

1. 講演にあたり

- 当初、一昨年に千葉県経済同友会が千葉県に提言した「千葉県の30年後の将来像」を元に講演する予定であったが、この場で講演するまでに、千葉県を襲った未曾有の台風災害に始まり、新型コロナウイルスの蔓延と大きく状況が変わったことから、それらを踏まえ、千葉県の将来像につなげる話をする。

2. 千葉県のポテンシャルについて

- 新型コロナウイルス蔓延直後はこうした講演の場で、オンラインセミナーの機会があっても回線が途切れるなど、評判も良くなく実用的ではなかったが、今では技術等の浸透で回線等も安定、人々の意識も変わりオンラインセミナーが定着した。他の企業でも、リモートオフィス、リモートワーク等が普及、人口と仕事の東京一極集中が地方に分散され、地域経済への波及が期待される。
- 千葉県の人口は、県の国勢調査の速報が発表され、増加基調維持を確認された。コロナ禍による外国人の転出超という厳しい環境にもかかわらず、東京都を避ける動きの効果か日本人の流入が支え、常住人口調査からも上方修正された。前回比でこれほど大幅に増加している都府県は、前回、東日本大震災の影響で小幅増加にとどまったという千葉県特有の事情はあるにせよ、他にないのではないかと。今後、新型コロナウイルスの蔓延が収束すれば、外国人の動きや、新型コロナウイルスの影響で一時的に仕事を奪われて転出が大きい地域も復活に向けて期待が持てるのではないかと。
- これまでのプロジェクトである、「北千葉道路」の建設や「成田空港第3旅客ターミナル」の整備、「圏央道」の未開通区間の開通などに加え、「新たな湾岸道路」の推進機運の加速、「千葉北西連絡道路」の登場など、道路網整備に一段と弾み。計画が明確になった地域では物流・関連企業の進出などの動きが明確になっていることや、高速道路へのアクセスが悪い千葉駅周辺の価値を高める効果など期待が持てる。

3. 千葉県が抱える課題について

- 千葉県の産業構造は、観光・サービス産業の比重が大きかったことから、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。企業ではリモートワークも定着しており、今後は、情報通信サービスなど、新たな産業を創出し将来に繋げていければ。
- 米国バイデン大統領が前大統領の政策を一部で大きく転換。世界規模の変化であるが、気候変動への対策転換は、首都圏への電力供給源であった京葉工業地域にとっては大きく影響を及ぼすものと思われる。化石燃料に頼ったビジネスモデルからの転換・技術革新を進めなければならない。